



本社・工場

# 第54期 事業報告書

平成17年8月21日～平成18年8月20日



 福島印刷株式会社

〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地  
TEL(076)267-5111(代) FAX(076)267-8065  
URL <http://www.fuku.co.jp/>



C906

福島印刷株式会社  
証券コード 7870



ふくしまみちお  
代表取締役社長 福島理夫

## 事業の概況

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、第54期(平成17年8月21日から平成18年8月20日まで)の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、企業収益が好調を持続し、設備投資の増加、株価の上昇などに支えられ、また、個人消費も雇用や所得の増加を背景に堅調に推移

したことから、回復基調で推移しました。

印刷業界におきましては、一部に印刷需要の持ち直しが見られるものの、原油価格高騰に伴う原材料価格の上昇や競争激化による受注単価の低下等により、依然として厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中で、当社は量産型DM(ダイレクトメール)加工設備2台を増設、そして、本年7月竣工の第二工場棟にDM印刷工程を移設し、DM・DPS(データプリントサービス)分野の生産能力の拡大と生産効率の改善を図りました。また、独自技術による「ならでは」商品、「ならでは」サービスの拡販と市場ニーズに対応した企画提案活動を推進してまいりました。具体的には新商品の「A4ブックUD(ユニバーサルデザイン)メール」、個人情報保護に対応した「情報保護シール付はがき」、環境保護に適應した「あと糊はがき eco」など独自商品の販売活動を展開いたしました。

また、金融機関、官公庁をはじめとするアウトソーシングニーズに対応し、誤封入を抑制する新たなDPS技術の開発、社内的には印刷ミス防止システムの開発などに取り組み、生産性向上と品質保証体制の強化に取り組んでまいりました。

情報セキュリティへの取組みについては、個人情報取扱事業者として経営の最重要課題としてとらえており、全社全業務での情報セキュリティ体制の更なる進化を目指し、管理体制の強化に努めました。

その結果、当事業年度の売上高は、前事業年度を92百万円(1.6%)上回る57億64百万円となりました。また、利益面においては、商品構成の多様化及び新工場増築等に伴う人員、開発、設備の先行投資や生産コストの上昇などにより、経常利益が前事業年度を1億29百万円(40.3%)下回る1億92百万円、当期純利益は前事業年度を36百万円(25.2%)下回る1億7百万円となりました。

今後の見通しにつきましては、企業業績の改善や設備投資の増加、個人消費の回復など持続的な成長が期待されますが、不安定な国際情勢や原油価格の高騰による素材価格の上昇が懸念されるなど、予断を許さない経営環境が続くものと予想されます。

印刷業界におきましても、紙媒体から電子媒体への需要の変化に加え、原油価格上昇に伴う用紙価格の値上がり懸念もあり、引き続き市場環境は厳しいものと考えられます。

このような状況を踏まえ、当社は市場ニーズに適應した独自技術による「ならでは」商品と「ならでは」サービスの開発に努め、

ソリューション提案の充実を図ることにより、既存顧客との関係強化と新規顧客開拓に注力してまいります。

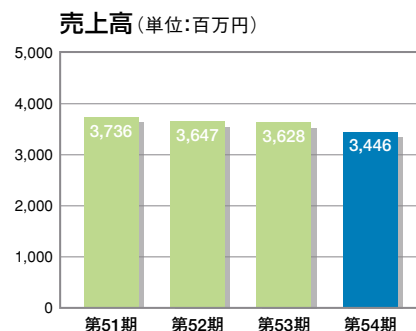
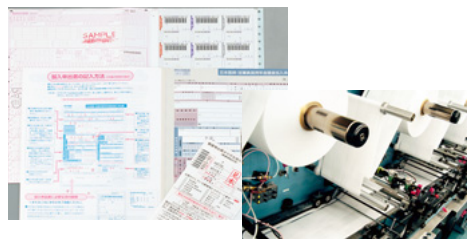
第54期に第二工場棟の増築を始めとする成長分野への大型設備投資を実施したことから、当面は減価償却費用負担の増加により収益的に厳しい状況が予想されます。第二工場棟の有効活用、DM加工ラインの本格稼働を目指すとともに、新設した高速8色輪転印刷機の早期立ち上げを図ってまいります。また、全社に弾力的な生産体制、勤務体系を試行し、業務集中時の過負荷の改善に取り組み、ワークライフバランスの均衡を図りながら生産効率の向上を目指していきます。同時に、当社独自の付加価値指標を導入し、部門別及び分野別の収益管理制度を立ち上げ、全社の原価意識の進化を図るとともに収益力の向上につなげてまいります。

また、プロセス全体を保証する品質保証体制の強化と全社全業務での情報セキュリティ体制の更なる進化に取り組み、今後も社会から信頼される企業を目指してまいり所存であります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

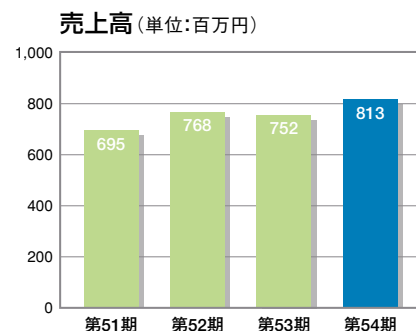
## ビジネスフォーム関連

ビジネスフォーム関連は、企業の業務合理化による需要量の減少傾向が続き、プライバシー保護に対応した「情報保護シール付はがき」関連商品や「事務通信DPS（データプリントサービス）」が好調に推移したものの、売上高は前事業年度を1億81百万円（5.0%）下回る34億46百万円となりました。



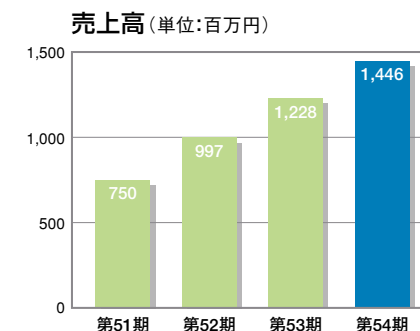
## カラー・文字物関連

カラー・文字物等商業印刷分野は、積極的な販売活動を推進した結果、カラー頁物を中心に受注が堅調に推移し、売上高は前事業年度を60百万円（8.0%）上回る8億13百万円となりました。



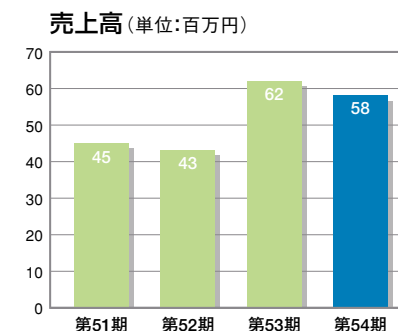
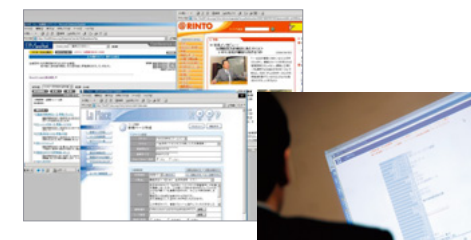
## DM・DPS関連

あと糊タイプのはがきDM、「A4ブックUDメール」の販促活動が功を奏し、DPS関連業務も堅調に推移しました。その結果、売上高は前事業年度を2億17百万円（17.7%）上回る14億46百万円となりました。



## ビジネスマルチメディア関連

電子カタログ等商品DB（データベース）関連、ホームページ等Web関連商品の企画提案活動を展開しましたが、売上高は前事業年度を4百万円（6.7%）下回る58百万円となりました。



## 平成18年7月 第二工場竣工 “ならでは”商品の拠点として本格稼働

平成18年7月25日、本社第一工場隣に第二工場が完成しました。三階建てで延べ床面積は約6,500㎡。一階部分には第一工場で使っていた8色輪転印刷機2台を移設。また高速8色輪転印刷機1台も導入しました。二階部分には設備増強のためのスペースを広く設けており、今後はさらに生産能力を高めていく予定です。三階部分は社員食堂と会議室になっています。第二工場では、高額商品の販売促進に適した大判のDM（ダイレクトメール）として当社で開発した冊子型DM「A4ブックUDメール」、個人情報保護対応「情報保護シール付はがき」など、利益率の高い福島印刷“ならでは”商品を生産します。



第二工場外観



竣工式

## “ならでは”商品の量産体制に向けた設備投資 DM加工機2台、高速8色輪転印刷機1台導入

平成17年11月、当社ならではの加工を施すユニットを追加した2台の加工機、「部分タック貼り合せ加工機」、「A4サイズ8ページ加工機」を導入しました。さらに平成18年7月、高性能・高機能の高速8色輪転印刷機1台を導入しました。これにより“ならでは”商品の量産体制が確立され、リードタイムの短縮、コスト競争力の強化につながりました。新しく導入した印刷機は従来の印刷機の2倍の用紙幅が取り扱え、インキ量の電子制御機能、自動用紙交換機能、自動インキ供給機能を装備しており、生産性は従来印刷機の3倍となり、歩留まりや人効率も向上します。



部分タック貼り合せ加工機  
(ミヤコシ製MS L 18型)



高速8色輪転印刷機  
(ミヤコシ製B B 36)

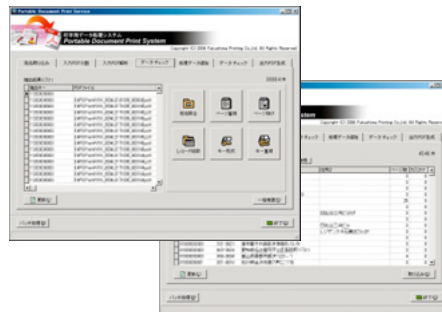
## PDプリント&デリバリーサービス開始



帳票出力データを標準的な電子文書形式であるPDFファイルでお預かりし、出力内容の同一性を保持したまま出力から封入、発送まで一貫して行う「PDプリント&デリバリーサービス」を開始しました。お客様からお預かりしたPDFファイルを自社開発した特許出願中のPDF解析ソフトにより解析。ファイル内の必要情報を読み取り、データ出力し、封入、発送まで一貫して請け負います。誤送付による個人情報漏洩の可能性を最小限に抑え、データをお預かりした翌日の発送が可能になりました。初年度の売上高は約1億円、三年後にはその3倍の売上高を目指します。



H18.5.30 北陸中日新聞



PDF解析システム

## ミス 印刷失敗防止システム開発

顧客のクレームを集めたDB（データベース）を活用した「過去からの対策」と、ベテラン社員の経験を生かし印刷業務前に注意点を警告する「先手対策」からなる、「印刷失敗防止システム」を開発しました。クレームのDB化は2004年8月から開始し、現在約1,700件が蓄積されています。このDBを利用することで、クレームがあった印刷物の再受注や、類似印刷物の場合には、製造指図書にクレーム番号が記載されます。「先手対策」となる事前警告は124件が登録されており、該当する印刷条件や工程があれば製造指図書に警告番号を記載します。これらの番号を入力すれば詳細な注意点や対処法が確認できます。



H18.4.22 北陸中日新聞



印刷失敗防止システム

貸借対照表

(平成18年8月20日現在)

単位：千円

資産の部	
科目	金額
<b>流動資産</b>	<b>2,050,934</b>
現金及び預金	384,917
受取手形	450,755
売掛金	818,352
製品	126,380
半製品	15,192
原材料	56,673
仕掛品	65,424
貯蔵品	8,817
繰延税金資産	42,104
未収法人税等	16,924
未収消費税等	61,926
その他	7,443
貸倒引当金	△ 3,976
<b>固定資産</b>	<b>4,902,705</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>4,632,353</b>
建物	2,136,033
構築物	71,744
機械及び装置	1,124,656
車両運搬具	4,851
工具器具備品	22,192
土地	965,106
建設仮勘定	307,770
<b>無形固定資産</b>	<b>8,706</b>
ソフトウェア	4,288
その他	4,417
<b>投資その他の資産</b>	<b>261,645</b>
投資有価証券	128,001
出資	2,680
長期貸付金	10,100
破産・更生債権等	2,189
長期前払費用	5,283
その他	115,580
貸倒引当金	△ 2,189
<b>資産合計</b>	<b>6,953,640</b>

負債の部	
科目	金額
<b>流動負債</b>	<b>1,482,250</b>
買掛金	238,791
短期借入金	390,000
1年以内返済予定の長期借入金	342,740
未払金	159,711
未払費用	243,675
未払法人税等	2,286
賞与引当金	69,165
役員賞与引当金	13,000
その他	22,881
<b>固定負債</b>	<b>1,820,780</b>
長期借入金	1,697,260
繰延税金負債	66,488
退職給付引当金	254
役員退職慰労引当金	56,777
<b>負債合計</b>	<b>3,303,031</b>
純資産の部	
<b>株主資本</b>	<b>3,633,020</b>
資本金	460,000
資本剰余金	285,200
資本準備金	285,200
<b>利益剰余金</b>	<b>2,887,820</b>
利益準備金	96,200
その他利益剰余金	2,791,620
固定資産圧縮積立金	172,153
別途積立金	2,505,000
繰越利益剰余金	114,467
<b>評価・換算差額等</b>	<b>17,588</b>
その他有価証券評価差額金	17,588
<b>純資産合計</b>	<b>3,650,608</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>6,953,640</b>

(記載金額は千円未満切捨)

損益計算書

(平成17年8月21日～平成18年8月20日)

単位：千円

科目	金額
売上高	5,764,353
売上原価	4,293,447
売上総利益	1,470,905
販売費及び一般管理費	1,275,750
<b>営業利益</b>	<b>195,155</b>
営業外収益	
受取利息及び配当金	2,275
その他	18,321
20,597	
営業外費用	
支払利息	17,760
その他	5,309
23,070	
<b>経常利益</b>	<b>192,682</b>

科目	金額
<b>特別利益</b>	
固定資産売却益	54
投資有価証券売却益	11,073
貸倒引当金戻入額	4,789
15,917	
<b>特別損失</b>	
固定資産売却損	42
固定資産除却損	9,998
投資有価証券売却損	539
10,580	
<b>税引前当期純利益</b>	<b>198,020</b>
法人税・住民税及び事業税	41,000
法人税等調整額	49,704
90,704	
<b>当期純利益</b>	<b>107,316</b>

(記載金額は千円未満切捨)

株主資本等変動計算書

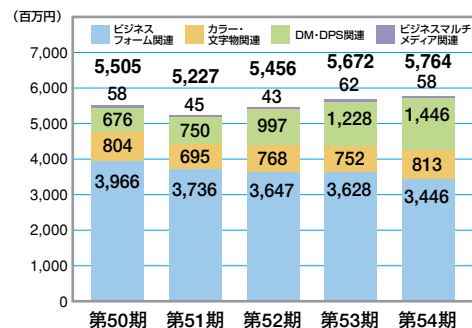
(平成17年8月21日～平成18年8月20日)

単位：千円

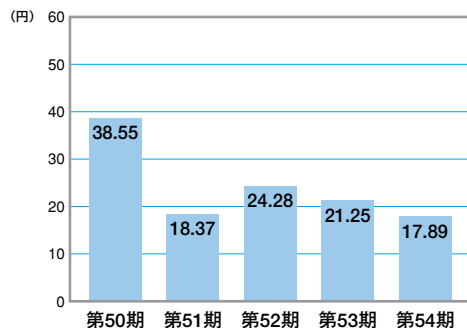
	株主資本						株主資本合計	評価・換算差額等
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	利益準備金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
平成17年8月20日残高	460,000	285,200	96,200	172,153	2,445,000	149,151	3,607,704	18,156
事業年度中の変動額								
剰余金の配当						△ 36,000	△ 36,000	
剰余金の配当(中間配当)						△ 30,000	△ 30,000	
利益処分による役員賞与						△ 16,000	△ 16,000	
別途積立金の積立				60,000		△ 60,000	—	
当期純利益						107,316	107,316	
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)								△ 568
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	60,000	△ 34,684	25,316	△ 568
平成18年8月20日残高	460,000	285,200	96,200	172,153	2,505,000	114,467	3,633,020	17,588

(記載金額は千円未満切捨)

■ 製品別売上高



■ 1株当たり当期純利益

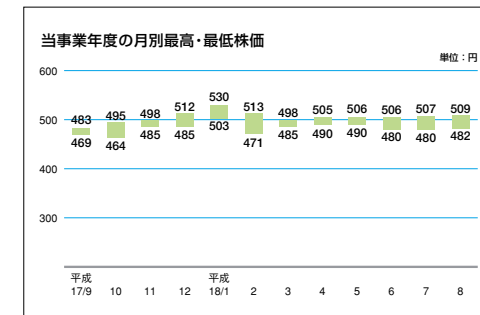


■ 株式の状況

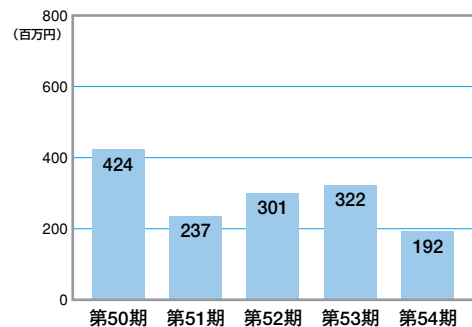
- ①発行可能株式数 24,000,000株
- ②発行済株式の総数 6,000,000株
- ③株主数 2,162名
- ④大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(株)	出資比率(%)
有限会社アジリスト	1,500,000	25.00
名古屋中小企業投資育成株式会社	473,400	7.89
北国総合リース株式会社	304,000	5.07
株式会社北国銀行	280,000	4.67
福島茂一	272,000	4.53
福島印刷従業員持株会	195,800	3.26
山崎久子	120,000	2.00
三菱製紙販売株式会社	110,000	1.83
三菱製紙株式会社	100,000	1.67
大徳美術印刷株式会社	100,000	1.67

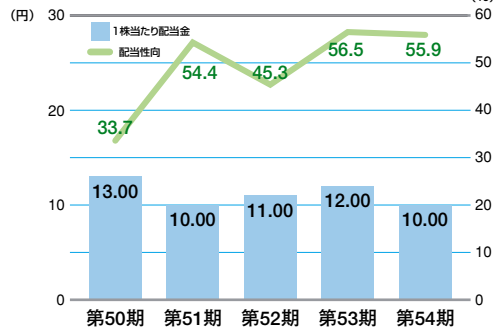
■ 株価の推移



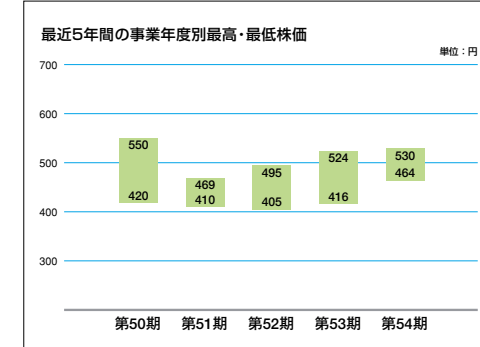
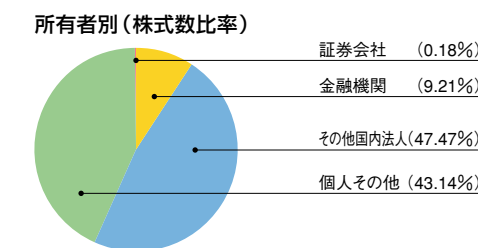
■ 経常利益



■ 1株当たり配当金・配当性向

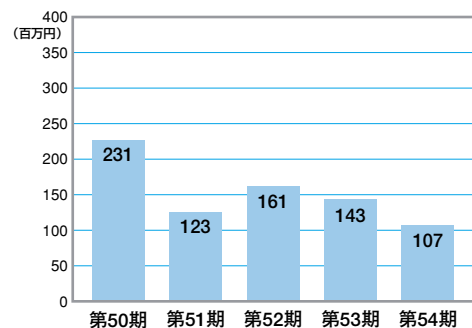


■ 株式の分布状況

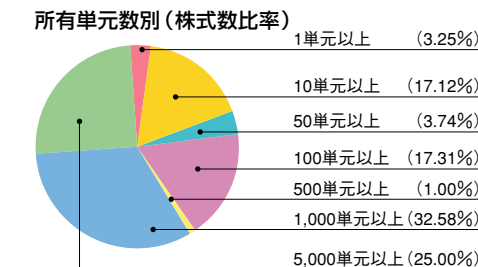
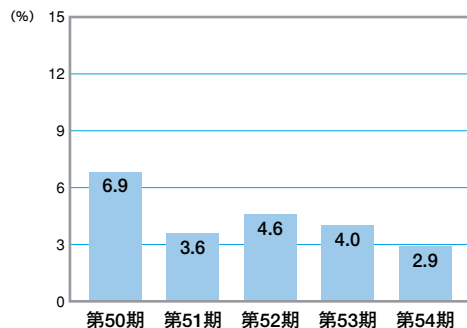


(注)名古屋証券取引所における高値・安値を表示しております。

■ 当期純利益



■ 自己資本利益率 (ROE)



■役員 (平成18年11月17日現在)

代表取締役社長	福島 理夫	取締役	三浦 隆弘
専務取締役	下 島 学	取締役	古林 孝之
常務取締役	山 本 弘	常勤監査役	岩 見 隆史
常務取締役	館 芳 昭	監査役	中 野 弘 史
取締役	粟 津 十 志 実		

■会社の概要

商 号	福島印刷株式会社
英 文 名	FUKUSHIMA PRINTING CO.,LTD.
本店所在地	〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地 TEL (076) 267-5111 (代)
設 立	昭和27年9月10日
資 本 金	4億6,000万円
従 業 員 数	382名
事 業 所	本社及び工場 金沢市佐奇森町ル6番地 富山営業所 富山市上袋715番地1 福井営業所 福井市問屋町3丁目811番地 東京営業所 東京都中央区日本橋本町4丁目5番14号 入江ビル6F 大阪営業所 大阪市中央区平野町3丁目3番8号 辻梅ビル3F 名古屋営業所 名古屋市中区金山1丁目2番2号 クマダ第2ビル5F

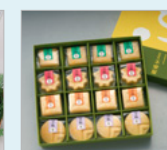
事業年度	8月21日から翌年8月20日まで
定時株主総会	11月
基 準 日	定時株主総会 8月20日 期末配当 8月20日 中間配当 2月20日 その他必要があるときは、予め公告して定めた日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱所	[郵便物送付先] [電話照会先] 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行事務センター(〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店 (お知らせ) 住所変更、单元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。 ●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内) ●ホームページ <a href="http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html">http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html</a>

単 元 株 式 数	100株
上 場 証 券 取 引 所	名古屋証券取引所
公 告 方 法	電子公告により当社ホームページ ( <a href="http://www.fuku.co.jp/">http://www.fuku.co.jp/</a> ) に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とします。
株 主 優 待 制 度	8月20日基準日現在1,000株以上の株主を対象に、3,000円相当の自社指定特産品4品から1品を、ご希望に応じて送付。 平成18年11月発送予定。



金沢五郎島金時



「不室屋」  
宝の麩詰め合わせ



「十字屋」  
一夜干詰め合わせ



「金沢ニューグランドホテル」  
評判のビーフカレー